

令和 7 年度 第 4 回 大牟田市地域公共交通活性化協議会

[報告事項]

(1) 令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業・ 事業評価について

<目次>

1. 令和 7 年度事業地域内 フィーダー系統
九州運輸局 二次評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. [参考] 令和 7 年度事業 地域間幹線系統
九州運輸局 二次評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

令和 8 年 3 月 2 7 日
大牟田市 国県道路・地域交通対策課

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

大牟田市地域公共交通活性化協議会：一次評価

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー）
協議会名：大牟田市地域公共交通活性化協議会
①補助対象事業者名：大牟田市地域公共交通活性化協議会

②事業概要	協議会における事業評価結果		④事業実施の適切性、⑤目標・効果達成状況
	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況		④/⑤
		⑥事業の今後の改善点	
米の山・黒崎団地線（18番系統） ●西鉄大牟田営業所 ～大牟田駅前 ～黒崎団地前 ●大牟田駅前 ～新栄町 ～黒崎団地前 ●新栄町 ～手鎌 ～黒崎団地前	【系統の分析（目標達成状況、利用者数）、収支率の向上】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等、利用実態に応じた便数の見直しが行われたことにより、利用者がコロナ禍前の6割程度となっているものの、収支率は改善されている。現状利用者の増加を見込むことは厳しいため、R6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えたつ、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 ・おおむた「大蛇山」まつり100円バス、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。 ・おおむた1日乗り放題バスきっぷをデジタルチケットで販売。 ・小学校の低学年を対象にしたバスの乗り方教室を1校で実施した。 ・石炭産業科学館でバス運転手体験会とバス乗車体験を実施した。 ・おおむた産業フェスタで公共交通利用促進のPRをおこなった。 ・JR大牟田駅東口、西口及び待合室、JR新大牟田駅待合室にスマートバス停を設置し、利用促進事業等の周知を行うとともに、待合環境改善を図った。 ・スマートバス停等のデジタルサイネージに加えて、公式SNSを活用した利用促進事業の周知を行った。	A	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上回ったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下回った。利用者数が下回った要因として、本系統において運行の効率化を図るための便数の見直しや沿線の商業施設の閉店の影響があげられる。一方で収支率は向上していることから、運行の効率化や運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。今後も目標達成のため、利用促進や更なる見直しを交通事業者と連携しながら進める必要がある。
米の山・黒崎団地線（10番系統） ●西鉄大牟田営業所 ～市立病院 ～普光寺 ●西鉄大牟田営業所 ～大牟田駅 ～米の山 ●大牟田駅 ～普光寺 ●大牟田駅 ～米の山 ●西鉄大牟田営業所 ～大牟田駅 ～普光寺	【系統の分析（目標達成状況、利用者数）、収支率の向上】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等、利用実態に応じた便数の見直しが行われたことにより、利用者がコロナ禍前の6割程度となっているものの、収支率は改善されている。現状利用者の増加を見込むことは厳しいため、令和6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えたつ、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 取組については、同上。 ・同上の取組に加えて、普光寺のバス停で降車の際に配布される抽選券で特産品が当たるイベントを実施した。	A	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上回ったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下回った。利用者数が下回った要因として、本系統において運行の効率化を図るための便数の見直しの影響があげられる。一方で収支率は向上していることから、運行の効率化や運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。今後も目標達成のため、沿線の利用者の利用促進に加え、観光地となる普光寺における利用者の利用促進など更なる見直しを交通事業者と連携しながら進める必要がある。
上官線（16番系統） ●ゆめタウン大牟田 ～笹林 ～倉掛 ●ゆめタウン大牟田 ～笹林 ～万田坑 ●ゆめタウン大牟田 ～笹林 ～万田坑	【系統の分析（目標達成状況、利用者数）、収支率の向上】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等により利用者がコロナ禍前の7割程度となっており、現状利用者の増加を見込むことは厳しいため、令和6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えたつ、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 ・おおむた「大蛇山」まつり100円バス、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。 ・おおむた1日乗り放題バスきっぷをデジタルチケットで販売。 ・小学校の低学年を対象にしたバスの乗り方教室を2校で実施した。 ・石炭産業科学館でバス運転手体験会とバス乗車体験を実施した。 ・おおむた産業フェスタで公共交通利用促進のPRをおこなった。 ・JR大牟田駅東口、西口及び待合室、JR新大牟田駅待合室にスマートバス停を設置し、利用促進事業等の周知を行うとともに、待合環境改善を図った。 ・スマートバス停等のデジタルサイネージに加えて、公式SNSを活用した利用促進事業の周知を行った。	A	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上回ったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下回った。本系統において、利用者数が微増し収支率は向上しており、接続している大型商業施設への出入りの増加や運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。今後も目標達成のため、交通事業者に加え、沿線のゆめタウン大牟田等の商業施設と連携を図りつつ、利用促進や利用状況に応じた運行の見直し等を進める必要がある。
大牟田市内線（1番系統） ●西鉄大牟田営業所 ～大牟田駅 ～三池中町 ●西鉄大牟田営業所 ～大牟田駅 ～久福木団地	【系統の分析（目標達成状況、利用者数）、収支率の向上】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等により利用者がコロナ禍前の7割程度となっている。現状利用者の増加を見込むことは厳しいため、令和6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えたつ、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 取組については、同上。	A	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上回ったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」及び「収支率」は下回った。利用者数が下回った要因として、本系統において運行の効率化を図るための便数の見直しや、10月に実施した運賃改定の影響があげられる。運賃改定を実施したものの、輸送人員の減少の影響が大きく、運賃収入も減少した結果、収支率は低下している。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。今後も目標達成のため、沿線の利用者の需要に注視しつつ、利用促進や更なる見直しを交通事業者と連携しながら進める必要がある。
吉野線（57番系統） ●西鉄大牟田営業所 ～橋交差点・大牟田病院前 ～西鉄大牟田営業所 ●西鉄大牟田営業所 ～橋交差点・大牟田病院前 ～大牟田市立病院 ●大牟田市立病院 ～橋交差点・大牟田病院前 ～大牟田市立病院	【系統の分析、目標値の見直し】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等により利用者がコロナ禍前の7割程度となっている。また、本路線は、令和5年11月1日から便数の1部を新大牟田駅に乗り入れて総距離が延長となっており、効果的・効率的に運行を継続していくためには収支率の改善が必要であることから、令和6年度より目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えたつ、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 取組については、同上。	B	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上回ったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下回った。一方で収支率は向上していることから、運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。今後も目標達成のため、利用促進や新大牟田駅の新幹線利用者の取組など、交通事業者と連携しながら進める必要がある。

地方運輸局等における二次評価結果

九州運輸局：二次評価

・評価の指標は、全市民の公共交通等の満足度、フィーダー補助系統の利用者数。
 ・「おおむた大蛇山まつり」での100円バスや公共交通デジタルスタンプラリー、1日乗り放題のデジタル化等、積極的な利便性向上の取組を着実に実施されていることを評価します。また、小学生に対するバスの乗り方教室等、現在だけでなく、将来を見据えた利用促進の取組を実施されていることも評価します。
 さらに大きな課題である運転手不足に対して、バス運転手体験会等の取組も実施されていることは高く評価します。
 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析（利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか（短期、中長期）、費用対効果はどうか等）を行っていただく上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを強く期待します。
 ・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標達成、未達成の要因は⑥にて分析された評価できるとともに、更なる深堀として、利用者層の属性等に着目した系統ごとその特性等を丁寧に定量的に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。
 ・また、評価指標の「満足度」については、目標達成しており、高く評価します。なお、達成した要因についても丁寧に分析していただくことを期待します。
 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）
 協議会名：福岡県バス対策協議会
 ①補助対象事業者名：西鉄バス大牟田（株）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 （生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

福岡県バス対策協議会：一次評価

②事業概要	協議会における事業評価結果		
	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性 / ⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点
上官線（25番系統） ●西鉄大牟田営業所 ～大牟田市立病院・上町～庄山	・今年度は、継続的な利用促進の取組みに加え、運行情報の視認性向上をはじめとした分かりやすく使いやすいバス停を目指し、市内4箇所にスマートバス停を設置するなど、利用者の拡大に努めた。 ◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施（2校） ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾 ・令和6年10月5日に運賃改定を実施 ・スマートバス停の設置	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された B 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績収支率30.4%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績28,861人以上を維持する。 【収支率】24.45% 令和5年度実績から5.95%悪化 【輸送人員】21,845人 令和5年度実績から7,016人減少 ◇達成できなかった理由 令和6年10月5日に実施した運賃改定により、一定の収入改善効果はあったものの、人件費・燃油費の高騰により経費が増加し、また、運賃改定の影響で利用者の逸走も生じたことから、いずれも目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・令和8年1月に、ノンステップバスを4台導入。 ・令和7年11月に大牟田市と連携し、「myroute」で発売中のおおむた1日乗り放題バスきっぷを100円で販売するキャンペーンを実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 ◇その他 令和7年10月1日に利用者の少ない勝立～庄山間の減便を実施。今後の利用状況を注視していく。
吉野線（55番系統） ●西鉄大牟田営業所 ～延命公園動物園前 ・大牟田市立病院 ・新大牟田駅 ～南関町役場	・今年度は、継続的な利用促進の取組みに加え、運行情報の視認性向上をはじめとした分かりやすく使いやすいバス停を目指し、市内4箇所にスマートバス停を設置するなど、利用者の拡大に努めた。 ◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施（2校） ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾 ・令和6年10月5日に運賃改定を実施 ・スマートバス停の設置	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された A 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績37.5%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績112,830人以上を維持する。 【収支率】39.11% 令和5年度実績から1.61%改善 【輸送人員】107,074人 令和5年度実績から5,756人減少	◇利用促進 ・令和8年1月に、ノンステップバスを4台導入。 ・令和7年11月に大牟田市と連携し、「myroute」で発売中のおおむた1日乗り放題バスきっぷを100円で販売するキャンペーンを実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 ◇その他 R5年11月1日より一部区間を並行する同路線他系統（行先番号57-2番）において、新大牟田駅でより多くの新幹線と接続できるよう、新大牟田駅への乗り入れ便数を増加した（改正前平日28便、改正後平日42便）。また、新大牟田駅周辺では産業団地用地がR6年より分譲開始されている。今後も利便性が高い施策が実施できるような状況を注視する。
大牟田市内線（2番系統） ●荒尾駅 ～右京町 ～久福木団地	・今年度は、継続的な利用促進の取組みに加え、運行情報の視認性向上をはじめとした分かりやすく使いやすいバス停を目指し、市内4箇所にスマートバス停を設置するなど、利用者の拡大に努めた。 ◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施（2校） ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾 ・令和6年10月5日に運賃改定を実施 ・スマートバス停の設置	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された A 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績収支率65.2%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績117,169人以上を維持する。 【収支率】68.46% 令和5年度実績から3.26%改善 【輸送人員】102,447人 令和5年度実績から14,722人減少	◇利用促進 ・令和8年1月に、ノンステップバスを4台導入。 ・令和7年11月に大牟田市と連携し、「myroute」で発売中のおおむた1日乗り放題バスきっぷを100円で販売するキャンペーンを実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 ・JR荒尾駅でのJR線との接続の見直しを検討していく。 ◇その他 近年、早朝夜間時間帯から日中時間帯にご利用がシフトしている傾向にある。一方で1時間に1便程度の運行と、運行便数も少ないため、一定程度は等間隔での運行が必要と考える。今後も状況を注視する。
大牟田市内線（4番系統） ●荒尾駅前 ～天領橋・高泉団地 ～三池中町	・今年度は、継続的な利用促進の取組みに加え、運行情報の視認性向上をはじめとした分かりやすく使いやすいバス停を目指し、市内4箇所にスマートバス停を設置するなど、利用者の拡大に努めた。 ◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施（2校） ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾 ・令和6年10月5日に運賃改定を実施 ・スマートバス停の設置	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された A 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績収支率68.3%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績116,207人以上を維持する。 【収支率】72.50% 令和5年度実績から4.20%改善 【輸送人員】107,240人 令和5年度実績から8,967人減少	◇利用促進 ・令和8年1月に、ノンステップバスを4台導入。 ・令和7年11月に大牟田市と連携し、「myroute」で発売中のおおむた1日乗り放題バスきっぷを100円で販売するキャンペーンを実施し、早期に予定枚数300枚が完売した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 ・JR荒尾駅でのJR線との接続の見直しを検討していく。 ◇その他 近年、早朝夜間時間帯から日中時間帯にご利用がシフトしている傾向にある。一方で1時間に1便程度の運行と、運行便数も少ないため、一定程度は等間隔での運行が必要と考える。今後も状況を注視する。

地方運輸局等における二次評価結果

九州運輸局：二次評価

評価指標【収支率】【輸送人員】

コロナは明けたものの、運転士や整備士をはじめとする人員不足や、燃料費・車両価格の高騰等、バスを取り巻く厳しい状況下で、バスを利用するきっかけづくりのためにバス無料デーや、体験乗車会を行い、スポーツや各種イベントとのタイアップ、企画乗車券の造成等、利用促進に向け様々な取組をされていることを評価します。今後もバス事業者、自治体等連携して取組を続けられることを期待します。
 また、沿線に学校がある系統ではバスの乗り方教室等を行い子供の時からバスを利用することに慣れてもらうことで、将来のバス利用者の創出に繋げ、観光需要を呼び込める可能性がある系統については利用促進のため広報やルートやダイヤの見直し、地域の実情や特性に応じ、取組み内容を工夫されている点も評価します。地域の足を守っていくためには、特に前者のような将来のバス利用者の創出に向けた地道な取組が不可欠であると思料します。
 目標の達成状況に関しては、数字だけを見ると輸送人員・収支改善状況ともに依然として厳しい状況ですが、上記のような取組を行う中で得た結果を検証することで、より効果的な改善につながる事が期待されます。
 今後は、目標を達成できなかった原因だけでなく、目標を達成した系統については、達成できた原因の分析を行い、目標を達成できなかった系統に活かせる部分は活かし、また、系統毎の目標達成状況に応じて、次の目標や評価指標を検討、最適化していくことも必要と思料します。